

分野		専門分野	
授業科目名 看護学概論		単位 時間	1単位 30時間
		開講時期 1年前期	
講師名	田中 敏子	実務経験	教務主任/保健師
講師名	稲田 由香里	実務経験	教務長/看護師
<b>授業概要</b> 看護学概論 看護師は人の一生の中で「生」と「死」、「病」と「死」という重要な局面に立ち会う職業であるため、その果たす役割や責務を理解する。また、看護活動の場の拡大や多様性からコミュニケーション能力を基盤にした継続した看護援助の必要性がわかる。看護の重要概念から看護師の役割を考察する。 看護倫理 複雑・高度化する医療現場の中で、様々な倫理的問題が生じている。そこで、医療の最前線に立つ看護師は、常に倫理的な判断が求められる現状がある。現代医療における倫理的問題を理解するために、倫理的感受性を高め倫理原則に基づき解決に向けて考える力を身につける。			
<b>到達目標</b> 1. 看護の重要概念の定義を述べることができる。 2. 看護の役割と責務及び機能について説明することができる。 3. 看護活動に必要なコミュニケーションの基本を身につけることができる。 4. 代表的な看護理論家の重要概念を要約し列記することができる。 5. 倫理の歴史的背景から看護倫理の必要性や重要性が理解できる。 6. 6つの倫理原則について説明することができる。 7. 看護者の倫理綱領から、職業倫理の価値及び社会的責務を説明することができる。 8. 演習を通して、看護実践での看護倫理の問題に気づき、看護職の立場から倫理的言動を考えることができる。 9. 自己の看護師の目標と取り組みを表現することができる。			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○ ○ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。 ◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。 ○ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。 ○ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。 ○ 5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。			
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
時間	授業内容	方法	備考
1	看護の重要概念；看護とは（看護の本質）	講義 演習 ポストテスト	田中敏子
2	看護の重要概念：人間とは（看護の対象の理解）	講義 演習 ポストテスト	
3	看護の重要概念：健康とは（国民の健康状態と生活） 環境とは（自然環境、地域等）	講義 演習 ポストテスト	
4	看護活動の場の広がり	講義 演習 ポストテスト	
5	看護提供のしくみ	講義 演習	
6	地域の活動の場における多様なコミュニケーション（対象者、家族、多職種連携）	講義 演習	
7	看護理論家の理論の特徴及びメタパラダイム	講義 演習 ポストテスト	
8	中範囲理論の看護実践の実際/専門看護師	講義 DVD	

9	看護倫理を学ぶ意義、看護倫理の歴史、看護の倫理原則、看護実践上の倫理的概念 (アドボカシー、責務、ケアリング、ジレンマ)	講義 ポストテスト	稲田由香里
10	看護専門職に求められる倫理 倫理綱領、保助看法と倫理、個人情報保護	講義 演習 ポストテスト	
11	倫理的問題へのアプローチ	講義 演習	
12	看護実践における倫理的問題の特徴、基本ルール、アプローチの方法		
13	専門職の倫理	講義 演習	
14	看護実践場面での倫理的問題について考察する。 モデル等を用いた倫理的問題へのアプローチ		
15			
	終了試験		
<b>受講上の注意</b>			
<p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。  重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習してください。  看護倫理の10回目～14回目は演習を行います。積極的に取り組んで下さい。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>看護学概論：ポストテスト（15点）、筆記試験（35点）  看護倫理：ポストテスト（6点）、出席・姿勢（4点）、レポート試験（40点）  レポート試験のテーマは、最終日に知らせます。試験と同じ取り扱いです。指定日時までに提出して下さい。  指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>			
<b>使用するテキスト</b>			
<p>茂野香おる他著 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 1 看護学概論 医学書院 2022  宮坂道夫他著 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 2022</p>			
<b>参考文献</b>			
<p>東京医科大学看護専門学校編著 よくわかる看護職の倫理綱領 照林社 2021  城ヶ端初子著 実践に生かす看護理論 19 サイオ出版 2020</p>			

分野 専門科目			
科目名	単位	1単位	開講時期
臨床看護総論			1年
	時間	15時間	
講師名	櫻井 美樹	実務経験	本校（看護師として臨床経験あり）
授業概要			
看護診断を導き出すためには科学的な思考能力を身につけることが重要である。この授業では各症状の発生のメカニズムの過程を整理することでアセスメントに必要な分析力を養う。			
到達目標			
1. 症状の発生のメカニズムの過程を調べることができ、その内容を関連できる。 2. 関連図を用いて症状の発生のメカニズムの過程、随伴症状と成り行きを説明できる			
DPとの関連			
関連が深いもの◎、関連するもの○			
○	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
○	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
○	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
○	5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】			
時間	授業内容	方法	備考
1	1. 症状の発生のメカニズムの過程を調べる方法 2. 調べた内容を図式化する方法	講義	
2	課題 ①呼吸困難－1)肺性呼吸困難－(4)肺水腫 ②黄疸－肝細胞性黄疸 ③便秘－機能的便秘－弛緩性便秘(1)(2) 1. 正常のメカニズムの過程について調べよう ①正常な呼吸 ②正常なビリルビン循環～排泄 ③正常な排便	協同学習の準備 (個人ワーク)	
3	2. 正常のメカニズムの過程について意見交流ワークを通して学びを深めよう ①正常な呼吸 ②正常なビリルビン循環～排泄 ③正常な排便	同じ課題をしている人と交流ワーク	
4	3. 症状の発生のメカニズムの過程、随伴症状について調べよう ①呼吸困難－1)肺性呼吸困難－(4)肺水腫 ②黄疸－肝細胞性黄疸 ③便秘－機能的便秘－弛緩性便秘(1)(2)	協同学習の準備 (個人ワーク)	
5	4. 症状の発生のメカニズムの過程、随伴症状についての意見交流ワークを通して学びを深めよう ①呼吸困難－1)肺性呼吸困難－(4)肺水腫 ②黄疸－肝細胞性黄疸 ③便秘－機能的便秘－弛緩性便秘(1)(2)	同じ課題をしている人と交流ワーク	
6	6. 症状の発生のメカニズムの過程、随伴症状について教え合うワークを通して自分以外の課題を学ぼう ①呼吸困難－1)肺性呼吸困難－(4)肺水腫 ②黄疸－肝細胞性黄疸 ③便秘－機能的便秘－弛緩性便秘(1)(2)	協同学習 課題レポート ポストテスト	課題提出
7	7. 症状の発生のメカニズムの過程、随伴症状について調べよう 課題「褥瘡」	個人ワーク	

7.5	課題「褥瘡」	講義	課題提出
	筆記試験		
<b>受講上の注意</b> ・科学的な思考能力を養うトレーニングの方法として、意図的にその思考を関連図に記録しほかの人に説明していくことで、分析力を自分のものにしていきましょう。			
<b>評価方法</b> 課題レポートを含む演習への取り組み・成果18点      ポストテスト6点      筆記試験76点			
<b>使用するテキスト</b> Gakken 看護過程に沿った対症看護      病態生理と看護のポイント 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論      医学書院 系統看護学講座 解剖生理学      医学書院 系統看護学講座      医学書院 課題に必要なテキスト			
<b>参考文献</b>			

分野		専門分野			
科目名 看護過程Ⅰ		単位	1単位	開講時期	
		時間	30時間	1年前期	
講師名 平野薫		実務経験	専任教員/看護師		
<b>授業概要</b> 看護を科学的かつ論理的に展開するための思考プロセスを学ぶ。アセスメントの枠組みとして、ゴードンの11の機能的健康パターンを活用し、また、看護診断を取り入れる。既習の学習内容を統合し、ペーパーシミュレーションにより看護過程の基本的な考え方と実際に学ぶ。					
<b>到達目標</b> 1. 看護における看護過程の意義や目的が説明できる。 2. 看護過程の構成要素と各段階を説明できる。 3. 情報の種類、情報整理の方法について説明できる。 4. 問題点の抽出方法、優先順位の考え方、看護診断について説明できる。 5. 看護目標、具体的な計画立案の方法について説明できる。 6. 事例を用いて、看護過程の展開ができる。					
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○					
◎ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。					
◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。					
◎ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。					
◎ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。					
◎ 5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。					
<b>授業の流れ【全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・準備物品など】</b>					
時間	授業内容			方法	備考
1	1. 看護過程の概要 1) 看護過程とは 2) 看護過程の構成要素 3) 基盤となる思考過程(根拠に基づいた看護、問題解決過程、クリティカルシンキング)			講義	
2	2. 看護過程の各段階 1) アセスメント (1) 情報収集の目的 (2) 情報収集の枠組み(ゴードンの機能的健康パターン) (3) 情報の種類と収集方法 (4) 情報の解釈・判断			講義	
3	2) 問題点の抽出(診断) (1) 看護診断とは (2) 看護診断の種類(実在型、リスク型、ヘルスプロモーション型)、共同問題 (3) 看護診断の表記方法 (4) 優先順位の考え方			講義	
4	3. 看護過程の実際<事例;脳梗塞患者> 1) 情報の分類 2) 情報の解釈・分析			講義	
5				講義	
6				講義・演習	
7				講義・演習	
8				講義・演習	
9		講義・演習			

10	看護問題の明確化（看護診断）、関連図の書き方	講義・演習	
11	関連図解説、優先順位の考え方	講義・演習	
12	目標の設定	講義・演習	
13	看護計画の立案	講義・演習	
14	看護計画の実施	講義・演習	
15	評価	講義・演習	

#### 受講上の注意

実践で看護を展開するための科学的思考に基づいた看護過程の基礎的知識・技術を修得しましょう。  
 今までの既習学習を活用し、自分で考え、探求する力を高めるよう取り組んでください。事例で看護過程を展開していきます。  
 初めて自分で行うアセスメントから必要な援助が見いだせるように学習を深めていきましょう。  
 ※この科目が修得できていないと、基礎看護学実習を履修することができません。

#### 評価方法

課題レポートを含む演習への取り組み・成果（30点）、筆記試験（70点）

#### 使用するテキスト

茂野香おる他著 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学（2） 基礎看護技術Ⅰ 医学書院  
 任和子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学（2） 基礎看護技術Ⅱ 医学書院  
 リンダJ. カルペニート著 看護診断ハンドブック第11版 医学書院  
 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 第5版 学研  
 矢田昭子、秦美恵子編集 標準看護計画 第3版 照林社

#### 参考文献

永田明、石川ふみよ監修 看護がみえるvol.4 看護過程の展開 第1版 メディックメディア  
 石川ふみよ著 看護過程の解体新書 医学書院  
 黒田裕子著 しっかり身につく看護過程 改訂第2版 照林社

<b>分野</b> 専門分野			
<b>授業科目名</b> 看護過程Ⅱ	<b>単位</b>  <b>時間</b>	<b>1単位</b>  15時間	<b>開講時期</b>  2 年次前期
<b>講師名</b> 田中 敏子	<b>実務経験</b> 専任教員/保健師		
<b>授業概要</b> 臨床判断の思考過程の基礎を学び、将来「看護師のように考える」ための基盤を養う。  この科目では臨床判断のプロセスにおける気づきと解釈に重点を置き学ぶ			
<b>到達目標</b> 1. 臨床判断の4つのフェーズについて説明できる。 2. 事例に必要な情報に気づき、収集ができる。 3. 収集した情報を解釈することができる。 4. 事例における臨床判断の様相を記述できる。			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
◎	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
◎	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
◎	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
<b>時間</b>	<b>授業内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	臨床判断とは、臨床判断モデル	講義・ポストテスト	
2	臨床判断とは、臨床判断モデル・気づきのトレーニング（トイレに行くことに課題）	ポストテスト	
3	気づきのトレーニング ・記録の記述	講義・DVD,演習	
4	事例に必要な解剖生理、病態生理を学習する・事例展開	講義・グループワーク	
5	事例展開 心不全の患者	講義・グループワーク	
6	事例展開 心不全の患者	講義・グループワーク	
7	事例展開 心不全の患者	講義・グループワーク	
8	事例展開 心不全の患者	講義・グループワーク	
	試験		
<b>受講上の注意</b> 初回指定時間までに事例展開レポートを提出する 8回目は行動計画と臨床判断の様相レポートを提出(基礎実習時に使用するレポートと同じフォーマットです)			
<b>評価方法</b> ポストテスト10点 演習への取り組み40点（レポート含む） 筆記試験50点			
<b>使用するテキスト</b> 茂野香おる他著 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 任和子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 リンダJ. カルベニート著 看護診断ハンドブック第11版 医学書院 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 第5版 学研 矢田昭子、秦美恵子編集 標準看護計画 第3版 照林社 永田明、石川ふみよ監修 看護がみえるvol.4 看護過程の展開 第1版 メディックメディア			
<b>参考文献</b>			

分野 専門分野			
科目名 基礎看護学技術Ⅰ		単位 1単位	開講時期 1年次前期
		時間 30時間	
講師名 永田英子	実務経験 看護師として臨床で勤務		
<b>授業概要</b> 看護の対象者が安全・安楽にその人に合った療養生活を送ることは、看護師が適切に対象者の健康上の問題を明確にして介入を的確にできることが不可欠になる。従って、対象者の健康上の問題を明確にするための身体的・精神的・社会的側面についての情報の収集とアセスメントの具体的方法を習得する			
<b>到達目標</b> 1.看護の対象である人を、身体的・精神的・社会的側面を統合してアセスメントすることの意義について述べるができる。 2.人の身体的側面の情報収集に必要なフィジカルイグザミネーションの技術が実施できる。 3.人の精神的・社会的側面について必要な情報の収集方法が実施できる。 4.上記目標1・2・3を統合して、対象者の健康上の問題についてアセスメント必要性が説明できる。 5.ヘルスアセスメントを行う上での礼節・態度を示すことができ、倫理的な配慮ができる。			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
◎	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
○	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
○	5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
時間	授業内容	方法	備考
1	ガイダンス及びヘルスアセスメントの意義	講義,ポストテスト	9/8 (金)
2	全体の外観とフィジカルアセスメント(必要な技術とバイタルサイン)	講義,ポストテスト	9/15 (金)
3	呼吸器系及び循環器系のフィジカルアセスメントの実際	講義,ポストテスト	9/15 (金)
4		講義,ポストテスト	9/22 (金)
5		演習, G・W	9/22 (金)
6	頭・頸部及び乳房と腋窩のフィジカルアセスメントの実際	講義,ポストテスト	9/29 (金)
7	腹部及び直腸・肛門・生殖器のフィジカルアセスメントの実際	講義,ポストテスト	9/29 (金)
8		講義・演習 G・W	10/6 (金)
9	脳・神経系及び筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際	講義,ポストテスト	10/6 (金)
10		講義,ポストテスト	10/13 (金)
11		演習, G・W	10/13 (金)
12	事例・シミュレーション (事例を通してフィジカルアセスメントを行う)	演習	10/20 (金)
13		演習, G・W	10/20 (金)
14	精神面・社会面のアセスメント	講義,ポストテスト	11/6 (木)
15	精神面・社会面のアセスメント・授業のまとめ	講義,ポストテスト	11/22 (水)
	終了試験(筆記試験)		
<b>受講上の注意</b> 各講義内容についての解剖生理・病態生理についてはそれぞれ事前に確認しておくこと 演習時間では、グループに分かれてフィジカルイグザミネーションを行い、情報からアセスメントをします。			
<b>評価方法</b> ポストテスト30点 演習への取り組み、レポート 20点 筆記試験50点			
<b>使用するテキスト</b> 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院			
<b>参考文献</b> フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア ナーシンググラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メディカ出版			

分野 専門分野			
授業科目名 基礎看護技術Ⅱ	単位	1単位	開講時期 1年次後期
	時間	30時間	
講師名 志方純子	実務経験	看護師として臨床で勤務	
授業概要 看護実践の安全性を保障し、感染予防の基本的姿勢が理解できる 対象の健康レベルに応じた援助技術を習得する 対象に応じた看護技術が安全安楽にできる			
到達目標 1. 看護援助の安全性を保障するための具体的な行動がわかる 2. 感染防止対策における原理原則がわかり、正確な手技で実践できる 3. 事例に応じた、日常生活の援助を安全安楽にできる			
DPとの関連 関連が深いもの◎、関連するもの○			
○ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。			
◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。			
○ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。			
○ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。			
○ 5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。			
授業の流れ【全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・準備物品など】			
時間	授業内容	方法	備考
	基礎看護技術		
1	患者の状況に応じた、安全安楽な生活援助技術とは	講義	
2	排泄を促す援助、排泄援助(床上、ポータブルトイレ)	演習 ポストテスト	
3	臥床患者のリネン交換、点滴ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	演習 ポストテスト	
4	移乗介助、体位交換、保持	演習 ポストテスト	
5	手浴、足浴(ベッド上、座位、拘縮のある患者)	演習 ポストテスト	
6	陰部の保清、オムツ交換	演習 ポストテスト	
7	清拭、整容	演習 ポストテスト	
8	洗髪	演習 ポストテスト	
9	口腔ケア	演習 ポストテスト	
10	事例に応じた看護援助	講義	
	感染安全		
11	感染安全の基本、感染経路別対策	講義	
12	器材の洗浄、消毒、滅菌、滅菌物の取り扱い	講義	
13	感染防止の技術(手指消毒、PPE着脱、滅菌物の取り扱い)	演習	
14	安全確保の技術	講義	
15	KYT演習	演習	
		演習	
受講上の注意 基礎看護技術Ⅱを習得できない場合は、基礎看護学実習を履修できない			
評価方法 レポート提出10点、筆記試験(感染安全)40点 技術評価50点			
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅰ〔2〕 Ⅱ〔3〕			
参考文献			



<b>分野</b> 分野基礎分野・科学的思考の基盤			
<b>科目名</b> 地域・在宅看護概論		<b>単位</b>  <b>時間</b>	<b>1単位</b>  15時間
<b>講師名</b> 田中 敏子		<b>実務経験</b> 専任教員・保健師	
<b>授業概要</b> 地域・在宅における看護は人々が地域において自分の望む暮らしを送ることができ、病気、人生の最終段階においても対象が望む暮らしを支える看護である。この科目では地域・在宅看護の基本的な考え方と暮らしの基盤としての地域の理解について学ぶ			
<b>到達目標</b> 1.看護の対象を生活者として理解し暮らしと健康について意見を述べるができる。 2.地域・在宅看護の基盤となる考え方を説明することができる。 3.地域在宅看護が重要視されている背景について述べるができる 4.地域包括ケアシステムについて説明できる。 5. 地域について調査を行い人々の暮らし、健康について考えることができる。			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
○ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。			
○ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。			
○ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。			
◎ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。			
◎ 5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。			
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
<b>時間</b>	<b>授業内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	人々の暮らしの理解・地域・在宅看護の役割	講義・ポストテスト	
2	地域包括ケアシステム、地域共生社会	講義・ポストテスト	
3	暮らしの基盤としての地域の理解 調査テーマの決定、方法	講義・演習	
4	フィールド・ワーク 身近な現象から暮らしと地域のかかわりをイメージする	講義・演習	
5	フィールド・ワーク	演習	
6	地域の課題、健康な生活について考える	G・W発表	
7	暮らしを支える地域・在宅看護	講義・ポストテスト	
8	暮らしを支える地域・在宅看護	講義	
	試験		
<b>受講上の注意</b> 4回目、5回目は土曜日10時～となります。あらかじめ調整しておいてください。			
<b>評価方法</b> ポストテスト15点 演習への取り組み10点 フィールドワークレポート20点 筆記試験55点			
<b>使用するテキスト</b>  系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院			
<b>参考文献</b> ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア 公衆衛生がみえる メディックメディア			

分野 専門分野				
科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅰ	単位	1単位	
時間		1単位	30時間	
開講時期			2年次	
講師名	平山くみ子	実務経験	保健師 保健所に勤務	
講師名	生座本理子	実務経験	保健師 保健所に勤務	
講師名	石丸千晶	実務経験	専任教員/看護師	
授業概要	<p>地域で行われる看護活動の1つである公衆衛生看護の役割と機能を理解する。</p> <p>地域で療養しながら生活する人々とその家族に対して、効果的な患者教育を行うための教育・指導の知識と技術を理解する。</p> <p>地域で生活する人々の暮らしを支援するあり方、ならびに支援の基盤となる訪問看護制度や社会資源を理解する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健師活動の役割と機能を理解できる。</li> <li>2. 対象者に意図的に働きかけ、精神・身体面における可能性を引き出し、個々の療養者の生活行動の変容を促す方法を理解できる。</li> <li>3. 地域で生活する人々の暮らしを支援する社会資源、訪問看護制度を理解できる。</li> </ol>			
DPとの関連	関連が深いもの◎、関連するもの○			
<input type="radio"/>	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。			
<input type="radio"/>	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。			
<input type="radio"/>	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。			
<input checked="" type="radio"/>	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種との役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。			
<input type="radio"/>	5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。			
授業の流れ【全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・準備物品など】				
時間	授業内容	方法	備考	
<b>地域・在宅看護論方法論Ⅰ-1【4時間】</b>				
1	保健機能とその活動	講義	平山くみ子	
2	保健師活動の役割と機能	講義	生座本理子	
<b>地域・在宅看護論方法論Ⅰ-2【26時間】</b>				
3	看護の教育機能 指導の対象と領域 指導の基本となるもの	講義	石丸千晶	
4	学習理論 社会的学習理論	講義		
5	看護における指導のプロセス 媒体	講義		
6	パンフレットの作り方 個人指導と集団指導	講義		
7	事例：自己効力感	講義		
8	事例：自己効力感	講義・ポストテスト		
9	地域における暮らしを支える看護	講義		
10	地域における暮らしを支える看護	講義		
11	地域・在宅看護実践の場と連携	講義		
12	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	講義		
13	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	講義		
14	地域・在宅看護の展開	講義		
15	地域・在宅看護の展開	講義・ポストテスト		
	試験			
受講上の注意				
評価方法	学科試験(50点)、課題レポート(40点)、ポストテスト(10点)			
使用するテキスト	医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論1	地域・在宅看護の基盤		
	医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論2	地域・在宅看護の実践		
参考文献				

<b>分野</b> 専門分野			
<b>科目名</b>	地域・在宅看護論方法論Ⅱ	<b>単位</b>	<b>1単位</b>
		<b>時間</b>	30時間
<b>講師名</b>	榊昌子	<b>実務経験</b>	元専任教員/看護師
<b>講師名</b>	坪山由香	<b>実務経験</b>	看護師として医療機関に勤務
<b>講師名</b>	山本高士	<b>実務経験</b>	理学療法士
<b>授業概要</b>	地域で生活しながら療養する人々、あるいは障害を持ちながら生活する人々とその家族を理解し、在宅における看護実践能力の基礎を習得する。		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の技術及び疾患別在宅看護の実際を理解する。</li> <li>2. 在宅における看護実践の基本知識を学ぶ。</li> <li>3. 地域で求められる援助技術を実施できる。</li> </ol>		
<b>DPとの関連</b>	関連が深いもの◎、関連するもの○		
○	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
○	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
○	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
○	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
<b>時間</b>	<b>授業内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術（嚥下）	講義・ポストテスト	榊昌子
2	食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術（嚥下）	演習・ポストテスト	榊昌子
3	経管栄養を受ける療養者の援助	講義	坪山由香
4	在宅中心静脈栄養法(HPN)を受ける療養者の援助	講義	坪山由香
5	排泄・呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術	講義	坪山由香
6	在宅酸素療法(HOT)を受ける療養者の援助	講義	坪山由香
7	創傷管理に関する地域・在宅看護技術 褥瘡の予防とケア	講義	坪山由香
8	褥瘡の予防ケア・創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)	演習	坪山由香
9	与薬に関する地域・在宅看護技術	講義	坪山由香
10	活動・休息に関する地域・在宅看護技術	講義・ポストテスト	坪山由香
11	中枢神経障害とリハビリテーション	講義	山本高士
12	活動・休息に関する地域・在宅看護技術（車椅子での移送、歩行介助、ストレッチャー移送）	演習	山本高士
13	活動・休息に関する地域・在宅看護技術（移乗介助、体位変換、自動・他動運動）	講義・演習	山本高士
14	介護実習普及センター見学	講義・ポストテスト	山本高士
15	介護実習普及センター見学（入浴・シャワーの介助）	演習	山本高士
	終了試験		
<b>受講上の注意</b>			
<b>評価方法</b>	学科試験(40点) 技術試験(30点) ポストテスト(30点) 到達レベル演習Ⅰ：車椅子での移送、歩行・移乗介助、体位変換・保持、自動・他動運動の援助、ストレッチャー移送、入浴・シャワー浴の介助。到達度の確認は、以下のいずれかで行う。 演習中の技術確認、チェックリストを活用した自己評価と他者評価の提出		
<b>使用するテキスト</b>	医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践		
<b>参考文献</b>			

<b>分野</b> 専門分野			
<b>授業科目名</b> 成人看護学概論	<b>単位</b>  <b>時間</b>	<b>1単位</b>  30時間	<b>開講時期</b> 1年次
<b>講師名</b> 田上文美	<b>実務経験</b> 看護師として医療機関に勤務経験あり		
<b>講師名</b> 志方純子	<b>実務経験</b> 看護師として医療機関に勤務経験あり		
<b>授業概要</b> 成人の多様な健康状態や健康問題について対応するための基本的な考え方を理解する。 対象である大人の包括的理解のために、健康生活を多角的にとらえることができる視点を学ぶ。			
<b>到達目標</b> 成人各期の身体的・精神的・社会的な特徴と成人期の保健行動を理解する。 急激な健康破綻に陥った人、慢性病をもつ患者、障害を持ちながら生活する人、終末期にある患者の看護について学ぶ。			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。 ◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。 ○ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。 ○ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。 ○ 5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。			
<b>授業の流れ【全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
<b>時間</b>	<b>授業内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
	成人保健		
1	成人の生活と健康	講義 ポストテスト	田上 文美
2	大人の生活からとらえる健康・保健医療福祉システム	講義 ポストテスト	
3	健康生活をはぐくむ看護、ヘルスプロモーション	講義 ポストテスト	
4	健康バランスに影響を及ぼす要因と予防	講義 ポストテスト	
5	さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援	講義 ポストテスト	
	成人看護学概論		
6	成人への看護アプローチの基本 学習課題の提示	講義	志方 純子
7	学習課題の資料収集	GW	
8	学習課題の資料まとめ	GW	
9	学習課題に沿った授業方法立案	GW	
10	学習課題ごとのグループでディスカッション	GW	
11	授業計画立案	講義・GW	
12	急激な健康破綻に陥った人の看護	講義・GW・ポストテスト	
13	慢性病をもつ患者の看護	講義・GW・ポストテスト	
14	障害をもちながら生活する人の看護	講義・GW・ポストテスト	
15	終末期の看護	講義・GW・ポストテスト	
	筆記試験		
<b>受講上の注意</b> 成人看護学概論 12～15回目の内容は順番が変更になることがある。GW後には、レポートを提出する。			
<b>評価方法</b> グループワーク演習への取り組み10点 レポート5点 ポストテスト15点 学科試験70点			
<b>使用するテキスト</b> 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学概論			
<b>参考文献</b>			

分野 専門分野			
科目名	単位	1単位	開講時期
成人看護方法論Ⅰ	時間	30時間	2年次前半
講師名 小畑優作	実務経験	看護師として医療機関に勤務	
講師名 松田陽平	実務経験	看護師として医療機関に勤務	
講師名 野口絢音	実務経験	看護師として医療機関に勤務	
<b>授業概要</b>			
成人期の心理的・社会的特徴をとらえ、対象に関する健康問題を理解し、適切な看護援助を提供するために必要とする知識、アセスメント能力を習得する			
<b>到達目標</b>			
呼吸機能障害に特有な症状、病態に対する看護を学び、看護実践場面での事例を通して、看護師の判断パターン、対処パターンの考え方の基礎を養う			
循環機能障害に特有な症状、病態に対する看護を学び、看護実践場面での事例を通して、看護師の判断パターン、対処パターンの考え方の基礎を養う			
生体防御機能障害に特有な症状、病態に対する看護を学び、看護実践場面での事例を通して、看護師の判断パターン、対処パターンの考え方の基礎を養う			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
○	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
○	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
○	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
○	5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
時間	授業内容	方法	備考
	呼吸機能障害をもつ患者の看護		
1	COPDの患者の経過と看護	講義 ポストテスト	小畑優作
2	COPDの患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
3	肺がん患者の経過と看護(術後)	講義 ポストテスト	
4	人工呼吸器を装着する患者の看護	講義 ポストテスト	
5	肺炎、結核、気管支喘息、自然気胸の患者の看護	講義 ポストテスト	
	循環機能障害をもつ患者の看護		
6	心不全患者の経過と看護	講義 ポストテスト	松田陽平
7	心不全患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
8	冠状動脈バイパス手術を受ける患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
9	冠状動脈バイパス手術を受ける患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
10	PCI,心臓リハビリテーション	講義 ポストテスト	
	生体防御機能障害をもつ患者の看護		
11	急性骨髄性白血病患者の寛解導入時の経過と看護	講義 ポストテスト	野口絢音
12	悪性リンパ腫患者の外来における経過と看護	講義 ポストテスト	
13	気管支喘息患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
14	全身性エリテマトーデス患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
15	脳梗塞により侵襲的処置を受ける患者の看護	講義 ポストテスト	
	筆記試験		
<b>受講上の注意</b>			
<b>評価方法</b>			
ポストテスト 30点			
筆記試験 70点			
<b>使用するテキスト</b>			
医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器			
医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器			
医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕血液造血器			
医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔11〕アレルギー・膠原病感染症			
<b>参考文献</b>			

<b>分野</b> 専門分野			
<b>科目名</b> 成人看護方法論Ⅱ	<b>単位</b>	<b>1単位</b>	<b>開講時期</b> 2年次前半
	<b>時間</b>	30時間	
<b>講師名</b> 伴歩	<b>実務経験</b> 看護師として医療機関に勤務		
<b>講師名</b> 金丸敦香	<b>実務経験</b> 看護師として医療機関に勤務		
<b>講師名</b> 田中桂子	<b>実務経験</b> 看護師として医療機関に勤務		
<b>講師名</b> 志方純子	<b>実務経験</b> 看護師として医療機関に勤務		
<b>授業概要</b> 成人期の心理的・社会的特徴をとらえ、対象に関する健康問題を理解し、適切な看護援助を提供するために必要とする知識、アセスメント能力を習得する			
<b>到達目標</b> 栄養摂取、代謝機能障害に特有な症状、病態に対する看護を学び、看護実践場面での事例を通して、看護師の判断パターン、対処パターンの考え方の基礎を養う 運動機能障害に特有な症状、病態に対する看護を学び、看護実践場面での事例を通して、看護師の判断パターン、対処パターンの考え方の基礎を養う 内部環境障害障害に特有な症状、病態に対する看護を学び、看護実践場面での事例を通して、看護師の判断パターン、対処パターンの考え方の基礎を養う 周術期にある成人の看護を理解する			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
○ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。			
◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。			
○ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。			
○ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。			
○ 5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。			
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
<b>時間</b>	<b>授業内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
	栄養摂取、代謝機能障害をもつ患者の看護		
1	胃がんで手術を受ける患者の経過と看護	講義 ポストテスト	伴歩
2	胃がんで手術を受ける患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
3	肝硬変患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
4	ストーマケア	講義 ポストテスト	
	運動機能障害をもつ患者の看護		
5	大腿骨頸部骨折による人工骨置換術の患者の経過と看護	講義 ポストテスト	金丸 敦香
6	大腿骨頸部骨折による人工骨置換術の患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
7	脊髄損傷の患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
8	脊髄損傷の患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
	内部環境調節障害をもつ患者の看護		
9	Ⅱ型糖尿病患者の経過と看護	講義 ポストテスト	田中桂子
10	Ⅱ型糖尿病患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
11	パセドウ病患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
12	パセドウ病患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
	周術期看護過程		
13	周術期とは。身体の一部を喪失しようとしている成人の特徴と理解	講義	志方純子
14	術前の看護	GW 講義	
15	術後の看護	GW 講義	
	筆記試験		
<b>受講上の注意</b>			
<b>評価方法</b> ポストテスト 30% 筆記試験 60% 演習レポート 10%			
<b>使用するテキスト</b> 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕運動器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔6〕内分泌代謝			
<b>参考文献</b> 周術期看護過程についてはテキストは別途指示する			

<b>分野</b> 専門分野		<b>科目名</b> 成人看護学方法論Ⅲ	
<b>科目名</b> 成人看護学方法論Ⅲ		<b>単位</b> 時間	<b>1単位</b> 30時間
<b>講師名</b> 保利京子		<b>実務経験</b> 看護師として医療機関に勤務	
<b>講師名</b> 井谷亜希子		<b>実務経験</b> 看護師として医療機関に勤務	
<b>講師名</b> 小財彩香		<b>実務経験</b> 看護師として医療機関に勤務	
<b>講師名</b> 志方純子		<b>実務経験</b> 看護師として医療機関に勤務	
<b>授業概要</b> 成人期の心理的・社会的特徴をとらえ、対象に関する健康問題を理解し、適切な看護援助を提供するために必要とする知識、アセスメント能力を			
<b>到達目標</b> 認知機能・コミュニケーション機能障害に特有な症状、病態に対する看護を学び、看護実践場面での事例を通して、看護師の判断パターン、対処パターンの考え方の基礎を養う 排泄機能障害に特有な症状、病態に対する看護を学び、看護実践場面での事例を通して、看護師の判断パターン、対処パターンの考え方の基礎を養う 性機能障害に特有な症状、病態に対する看護を学び、看護実践場面での事例を通して、看護師の判断パターン、対処パターンの考え方の基礎を養う 急性期における看護技術の実際が理解できる			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
○ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。			
◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。			
○ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。			
○ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。			
○ 5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。			
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
<b>時間</b>	<b>授業内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
	認知機能・コミュニケーション障害をもつ患者の看護		
1	パーキンソン病患者の経過と看護	講義 ポストテスト	保利京子
2	パーキンソン病患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
3	頸動脈ステント留置術（CAS）を受ける患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
4	頸動脈ステント留置術（CAS）を受ける患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
	排泄機能障害をもつ患者の看護		
5	糖尿病性腎症から透析導入となった患者の経過と看護	講義 ポストテスト	井谷亜希子
6	糖尿病性腎症から透析導入となった患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
7	前立腺全摘術を受けた患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
8	前立腺全摘術を受けた患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
	性機能障害をもつ患者の看護		
9	卵巣がん患者の経過と看護	講義 ポストテスト	小財彩香
10	卵巣がん患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
11	乳がん患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
12	乳がん患者の経過と看護	講義 ポストテスト	
	成人臨床看護技術		
13	ドレーン管理、輸血管理の基礎	講義	志方純子
14	一次救命処置、止血法	演習	
15	一次救命処置、止血法	演習	
	筆記試験		
<b>受講上の注意</b> 一次救命処置、止血法については、通常の講義時間とは異なるので注意すること。			
<b>評価方法</b> ポストテスト 30% 筆記試験 60% 演習レポート 10%			
<b>使用するテキスト</b> 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕脳神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔8〕腎泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔9〕女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学			
<b>参考文献</b>			

科目No.39

<b>分野</b> 専門分野						
<b>授業科目名</b> 老年看護学概論		<b>単位</b> 時間	<b>1単位</b> 30時間	<b>開講時期</b> 1年後期		
<b>講師名</b> 長浦 善一郎		<b>実務経験</b> 医師として医療機関に勤務経験あり				
<b>講師名</b> 櫻井 美樹		<b>実務経験</b> 専任教員/看護師				
<b>授業概要</b> 老年期の特徴を多面的に理解し、社会構造の変化や高齢社会における健康問題の動向と社会保障、高齢者の生活の場に合わせた地域資源の知識を学び、老年看護の基礎的知識を養う。						
<b>到達目標</b> 1. 老年期の特徴を理解する 2. 加齢に伴う心身の変化と特徴を理解する 3. 高齢者の死にかかわる権利の擁護について理解する 4. 老年看護の原則・目標を学び老年看護の役割を理解する 5. 老年期の対象を取り巻く社会と保健福祉制度を理解する 6. 様々な療養環境における看護を理解する 7. 老年期の対象の尊厳の権利擁護を学ぶ 8. 老年看護における倫理的問題を学ぶ						
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○						
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。					
○	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。					
◎	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。					
◎	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。					
○	5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。					
<b>授業の流れ【全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・準備物品など】</b>						
<b>時間</b>	<b>授業内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>			
1	老いるということ、老いを生きるということ	講義	櫻井美樹			
2	高齢者疑似体験(*実習室も使用します、ナースシューズ持参)	高齢者疑似体験 課題レポート	櫻井美樹			
3	高齢者の定義、老年期の発達課題、老年期の健康	講義 ポストテスト				
4	高齢者のヘルスアセスメント(皮膚、消化器、泌尿器)	協同学習の準備 課題レポート				
5	高齢者のヘルスアセスメント(皮膚、消化器、泌尿器)(呼吸器)	協同学習・講義 ポストテスト				
6	高齢者のヘルスアセスメント(循環器、運動器、感覚器)	講義 ポストテスト				
7	高齢者のヘルスアセスメント(ヘルスアセスメントの基本、セクシュアリティ、社会参加)	講義・演習				
8	住み慣れた場所で自立ということ	グループワーク/発表				
9	高齢者のエンドオブライフケア	講義 課題レポート				
10	老年看護の目標・役割	講義/グループ発表 振り返りレポート				
11	高齢者を取り巻く社会と社会保障:超高齢社会の統計的輪郭	講義 ポストテスト			長浦善一郎	
12	高齢者を取り巻く社会と社会保障:高齢者と家族、保健福祉制度	講義 ポストテスト				
13	高齢者とヘルスプロモーション、高齢者の生活環境・療養の環境、地域包括ケア	講義 ポストテスト				
14	高齢者の生活環境・療養の環境における看護と他職種連携	講義 ポストテスト				

15	高齢者の尊厳と権利擁護、倫理的問題	講義 ポストテスト	長浦善一郎
	筆記試験		
<b>受講上の注意</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に対するイメージを具体的に持てるように高齢者の生きてきた生活史や高齢者体験を通し学んでいきます。</li> <li>・4回、5回目は協同学習でアクティブに主体的に学び合います。教科書以外から調べ教え合いましょう。</li> <li>・高齢者のヘルアセスメントの知識を得るだけでなく、老年看護を実践する人として、高齢者の権利擁護のための判断力や行動力も身につけたいです。</li> <li>・協同学習の課題、課題レポート、振り返りレポートの提出物は定めた日に時を評価対象になります、遅れそうな時は事前に提出していきましょう</li> </ul>			
<b>評価方法</b>			
ポステスト24点 課題レポートを含む演習への取り組み・成果15点 筆記試験61点			
<b>使用するテキスト</b>			
系統看護学講座 専門分野II 老年看護学 医学書院			
<b>参考文献</b>			

<b>分野</b> 専門分野			
<b>科目名</b> 老年看護学方法論Ⅰ	<b>単位</b>	<b>1単位</b>	<b>開講時期</b> 2年前期
	<b>時間</b>	30時間	
<b>講師名</b>	田坂真理	<b>実務経験</b>	看護師（看護師として臨床経験あり）
<b>講師名</b>	那須拓弥	<b>実務経験</b>	看護師（看護師として臨床経験あり）
<b>講師名</b>	保利京子	<b>実務経験</b>	認定看護師（看護師として臨床経験あり）
<b>授業概要</b> 高齢者に特徴的な疾患や身体症状を理解し、生活を整えるための援助するために必要な知識を養う。			
<b>到達目標</b> 1. 高齢者の生活機能を整える看護が理解できる 2. 加齢による骨折の特徴と手術、治療を必要とする高齢者の看護が理解できる 3. 高齢者におこりやすい症状のアセスメントと看護が理解できる 4. 認知症のある高齢者の看護が理解できる			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
○ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。			
◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。			
○ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。			
○ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。			
○ 5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。			
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
<b>時間</b>	<b>授業内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	高齢者の生活機能を整える看護（日常生活を支える基本的活動） * 日常生活動作（バーセント指数）、手段的日常生活動作（IADL尺度）、転倒・転落スコアシート、障害高齢者の日常生活自立度判定基準	講義 ポストテスト	田坂真理
2	高齢者の生活機能を整える看護（食事・食生活、排泄）	講義 ポストテスト	
3	高齢者の生活機能を整える看護（清潔、生活リズム、コミュニケーション）	講義 ポストテスト	
4	1. 運動機能障害がある高齢者の看護 1) 高齢者におこりやすい骨折と特徴	講義 ポストテスト	那須拓弥
5	2) 検査を受ける高齢者の看護 3) 入院に伴う高齢者の看護 4) 高齢者の手術における観察ポイントと看護	講義 ポストテスト	
6	①術前オリエンテーション ②術後せん妄 ③廃用症候群予防と早期離床 ④肺合併症予防と疼痛コントロールへの看護 ⑤安楽な離床の援助方法	講義 ポストテスト	
7	5) リハビリテーションを受ける高齢者の看護 6) 高齢者への退院調整と退院支援 高齢者の薬物動態の特徴、副作用の観察、服薬行動への援助	講義 ポストテスト	
8	高齢者におこりやすい症状のアセスメントと援助方法（発熱・掻痒、褥瘡） * ブレーデンスケール、褥瘡の分類	講義 ポストテスト	田坂真理
9	高齢者におこりやすい症状のアセスメントと援助方法（脱水・浮腫、嘔吐） * 浮腫のアセスメントスケール * 手袋クッション	講義 ポストテスト	
10	高齢者におこりやすい症状のアセスメントと援助方法（倦怠感・疼痛） * ペインスケール	講義 ポストテスト	那須拓弥
11	認知症の動向、地域包括ケアと認知症施策（福岡市の認知症の人への取組み）	講義 ポストテスト	保利京子
12	認知症の分類、認知症の中核症状と周辺症状 老年期うつ病、せん妄と認知症の違い * 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準	講義 ポストテスト	
13	認知症高齢者の日常生活自立度 認知症高齢者とのコミュニケーションの方法	講義・演習 課題レポート	

14	認知症高齢者の生活リズムへの援助（環境、清潔、睡眠、食事、排泄）、家族へのサポート）	講義・演習	保利京子
15		課題レポート	
	試験	講義・演習 課題レポート	
<b>受講上の注意</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢が及ぼす症状や生活行動への影響に着目し、その要因を理解し考える力を身につける。</li> <li>・入院により生活上の変化を余儀なくされる高齢者は、生活リズムの変調によって問題が生じやすい。高齢者の特徴を理解し他援助を考える。手術療法を受ける看護については、術後の回復に時間を要し、術後の合併症も起こしやすい高齢者の特徴を理解した、術前・術中・術後の看護、退院支援について学習する。</li> <li>・認知症の病態と認知機能の評価について学習し、対象の状態に応じた日常生活援助の方法や留意点を演習から援助を考える。認知症の高齢者を支えるケアシステム、家族支援のありようについて学習する。</li> </ul>			
<b>評価方法</b>			
ポストテスト24点 課題レポートを含む演習への取り組み・成果9点 筆記試験67点			
<b>使用するテキスト</b>			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院			
<b>参考文献</b>			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院 看護過程に沿った対症看護 学研メディカル秀潤社			

科目No. 41

<b>分野</b> 専門分野			
<b>科目名</b> 老年看護学方法論Ⅱ	<b>単位</b>  <b>時間</b>	1単位  30時間	<b>開講時期</b> 2年後期
<b>講師名</b> 櫻井 美樹	<b>実務経験</b> 専任教員/看護師		
<b>授業概要</b> 高齢者の特徴をふまえ、生活の観点からアセスメントし、患者自身が望む生活へ整えるための看護計画、基本的な看護援助を養う			
<b>到達目標</b> 1. DVD事例を使って健康障害のある老年期にある人の看護過程の展開ができる 2. 病態と生活機能に着目した看護が理解できる。 3. 事例による看護計画に基づいて個別性を考えた看護技術が実施できる。			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
○ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。			
◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。			
○ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。			
○ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。			
○ 5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。			
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
時間	授業内容	方法	備考
1	看護過程：パーキンソン病 情報収集	講義・DVD	
2	食事介助の演習	技術演習	
3	看護過程：パーキンソン病 栄養-代謝：情報の分析	講義	
4	看護過程：パーキンソン病 食事指導の計画	グループ演習	
5	看護過程：パーキンソン病 食事指導の演習	技術演習	
6	経管栄養法による流動食の注入	講義	
7	経鼻胃チューブの挿入・流動食の注入の演習	技術演習	
8		技術演習	
9	看護過程：パーキンソン病 排泄：情報の分析	講義	
10	看護過程：パーキンソン病 排便への計画（浣腸）（摘便）	講義	
11	看護過程：パーキンソン病 浣腸の演習	技術演習	
12	看護過程：パーキンソン病 摘便の演習	技術演習	
13	膀胱留置カテーテルの挿入、カテーテルの管理	講義	
14	膀胱留置カテーテルの挿入、カテーテルの管理	技術演習	
15		技術演習	
<b>受講上の注意</b> ・看護技術演習は事例を基にした技術演習をするため、看護過程をきちんと進めて下さい。 ・演習の課題レポートは、臨地実習記録の行動計画表を用いて介入計画を立案します。 ・技術演習のリフレクションは、技術演習をとおして記述する課題となります。 ・提出物は定めた日時を評価対象となります。			

### 評価方法

・看護過程の記録、技術の手順レポート、指導計画書（リーフレット含む）、自己評価表は決められた期日までに提出してください。提出が遅れる人はその理由を報告し速やかに提出すること。提出遅れは減点になります。

到達レベル 演習Ⅰ：食事介助（嚥下障害のある患者を除く）、経管栄養法による流動食の注入、  
経鼻胃チューブの挿入、膀胱留置カテーテルの管理、浣腸、摘便

演習Ⅱ：食事指導、導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入

到達度の確認は、演習中チェックリスト、動画、リフレットレポートの提出、行動計画書の実施評価  
課題レポートを含む演習への取り組み・成果70点、 出席・態度30点

### 使用するテキスト

### 参考文献

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

看護技術がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア（技術演習で使用する本）

分野	専門分野		
科目名	小児看護学概論	単位	1単位
		時間	30時間
講師名	元山 浩貴	実務経験	医療機関において医師として勤務
講師名	平野 薫	実務経験	専任教員/看護師
<b>授業概要</b>			
<p>小児期は人間の一生の中で最も成長発達の著しい時期である。そして子どもの心身の成長発達は環境によって影響を受けるため、子どもを取り巻く環境を視野に入れ、対象を理解する必要がある。子どもを発達していく存在としてとらえ、子どもが社会の中で健やかに成長・発達を遂げる権利や保健医療福祉を理解し、子どもと家族の健康な生活への支援のための基礎的知識を学ぶ。変化する社会の中で子どもをめぐる問題から看護の役割を学ぶ。成長・発達の知識と発達段階に合わせた生活支援の方法を学ぶ。</p>			
<b>到達目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の理念と目的を説明できる。</li> <li>2. 小児看護における倫理と子どもの権利について説明できる。</li> <li>3. 小児保健統計を踏まえ、子どもを保護する法律や保健対策を説明できる。</li> <li>4. 小児期の特徴と各期の成長・発達について説明できる。</li> <li>5. 小児各期の子どもと家族の日常生活への援助が説明できる。</li> <li>6. 小児各期に起こりやすい健康問題と援助について説明できる。</li> </ol>			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
○	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
◎	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
○	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
時間	授業内容	方法	講師
1	1. 小児看護の理念・特徴・目的 2. 小児と家族の諸統計、家族とは 3. 小児看護の変遷	講義 ポストテスト	平野 薫
2	4. 小児看護の倫理 1) 子どもの人権 2) 児童憲章 3) 児童の権利に関する条約 4) インフォームド・アセント 5) アドボカシー 5. 小児看護の課題	講義 ポストテスト	
3	子どもの成長と発達 1) 成長・発達とは 2) 成長・発達の進み方 3) 成長・発達に影響する因子 4) 成長の評価 5) 発達の評価	講義 ポストテスト	元山 浩貴
4	小児各期の成長・発達(新生児・乳児、幼児・学童期、思春期・青年期) 1) 形態的成長 2) 機能的発達 3) 心理・社会的発達	講義 ポストテスト	
5		講義 ポストテスト	
6		講義 ポストテスト	
7	子どもを取り巻く社会 (1) 児童福祉 (2) 母子保健 (3) 医療費の支援 (4) 予防接種 学校保健 (6) 食育 (7) 特別支援教育 (8) 臓器移植	(5) 講義 ポストテスト	

8	新生児期・乳児期の日常生活、起こりやすい健康問題への支援	講義 ポストテスト	平野 薫
9	幼児期の日常生活、起こりやすい健康問題への支援	講義 ポストテスト	
10	学童期・思春期の日常生活、起こりやすい健康問題への支援	講義 ポストテスト	
11	子どもと家族の日常生活、起こりやすい健康問題と支援（新生児・乳児期、幼児期、学童期、思春期）を事例をもとに考える	GW/講義	
12		GW	
13		GW	
14		GW	
15		GW/講義	
	終了試験		
<b>受講上の注意</b> 准看護師課程で履修した小児に関する学習を活用できるように復習しておきましょう。 テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。 重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。わからない語句や内容について調べておきましょう。			
<b>評価方法</b> ポストテスト（20点）、課題（10点）、筆記試験（70点）			
<b>使用するテキスト</b> 奈良間美保他著 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院			
<b>参考文献</b>			

分野		専門分野		
科目名	小児看護学方法論Ⅰ	単位	1単位	開講時期
		時間	30時間	2年前期
講師名	河野 輝宏	実務経験	医療機関において医師として勤務	
講師名	渡部 沙智	実務経験	医療機関において看護師として勤務	
授業概要				
<p>小児の健康障害について症状とその病態生理・検査・治療を学び、それらの健康問題・障害が子どもと家族に与える影響と看護について学ぶ。</p>				
到達目標				
<p>1. 小児の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。                  2. さまざまな状況にある子どもと家族の看護について説明できる。                  3. 子どもの健康問題・障害の経過（慢性期、急性期、周手術期、終末期）に応じた子どもと家族の看護について説明できる。</p>				
DPとの関連 関連が深いもの◎、関連するもの○				
○	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。			
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。			
○	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。			
○	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。			
○	5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。			
授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】				
時間	授業内容	方法	備考	
1	1. 小児によく見られる疾患とその治療・検査 1) 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 2) 新生児、低出生体重児の特性と疾患	講義	河野 輝宏	
2	3) 代謝性疾患、内分泌疾患 4) 免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患	講義		
3	5) 感染症 6) 呼吸器疾患 7) 循環器疾患	講義		
4	8) 消化器疾患 9) 血液・造血器疾患	講義		
5	10) 悪性新生物 11) 腎・泌尿器および生殖器疾患	講義		
6	12) 神経疾患 13) 運動器疾患 14) 事故・外傷	講義		
7	15) 皮膚疾患 16) 眼疾患 17) 耳鼻咽喉頭疾患 18) 精神疾患	講義		
8	1. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 1) 病気・障害が子どもに与える影響 2) 子どもの健康問題と看護 2. 子どもの状況（環境）に特徴付けられる看護 1) 入院中の子どもと家族の看護 2) 外来における子どもと家族の看護 3) 在宅療養中の子どもと家族の看護 4) 災害時の子どもと家族の看護	講義 ポストテスト	渡部 沙智	
9	3. 子どもにおける疾病の経過と看護 1) 慢性期 2) 急性期 3) 周手術期 4) 終末期 4. 障害のある子どもと家族の看護	講義 ポストテスト		
10	疾病の経過と看護の実際（10～15回） 1. 先天的な問題をもつ子どもと家族の看護（ダウン症、18トリソミー症候群） 2. 代謝疾患と看護（1型糖尿病） 3. 内分泌疾患と看護（成長ホルモン分泌不全症、先天性甲状腺機能亢進症）	講義 ポストテスト		
11	5. アレルギー疾患、免疫・リウマチ疾患（食物アレルギー、気管支喘息、若年性突発性関節炎） 6. 感染症と看護（麻疹、風疹、水痘、ムンプス、ポリオ、髄膜炎、百日咳、結核）	講義 ポストテスト		

12	7. 呼吸器疾患と看護（クループ症候群、かぜ症候群、肺炎） 8. 循環器疾患と看護（ファロー四徴症、川崎病）	講義 ポストテスト	渡部 沙智
13	9. 消化器疾患と看護（裂・口唇裂、食道閉鎖症、肥厚性幽門狭窄症、鎖肛、胆道閉鎖症、腸重積症、急性胃腸炎） 10. 血液・造血管疾患と看護（貧血、出血傾向、輸液療法を必要とする子どもの看護、血友病）	講義 ポストテスト	
14	11. 悪性新生物と看護（白血病、神経芽腫） 12. 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護（ネフローゼ症候群、尿路感染症、VUR、尿道下裂） 13. 神経疾患と看護（痙攣、脳性麻痺、水頭症、二分脊椎）	講義 ポストテスト	
15	14. 運動器疾患と看護（先天性股関節脱臼、子どもの骨折） 15. 事故・外傷と看護	講義 ポストテスト	
	終了試験		

#### 受講上の注意

准看護師課程で履修した小児に関する学習を活用できるように復習しておきましょう。  
テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。  
重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。  
わからない語句や内容について調べておきましょう。

#### 評価方法

ポストテスト（10点）、筆記試験（90点）

#### 使用するテキスト

奈良間美保他著 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院  
奈良間美保他著 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院

#### 参考文献

分野	専門分野				
科目名	小児看護学方法論Ⅱ	単位	1 単位	開講時期	2年後期
		時間	30時間		
講師名	五嶋 結理	実務経験	医療機関において看護師として勤務		
講師名	平野 薫	実務経験	専任教員/看護師		
<b>授業概要</b>					
事例を用いた看護過程の展開を行い、状況に応じた看護を考え、健康障害のある子どもの日常生活援助や治療検査に伴う援助について学ぶ。					
また、小児の成長発達を踏まえた看護を実践するために必要な看護技術の方法を理解し、習得する。					
<b>到達目標</b>					
1. 子どものアセスメントに必要な技術について説明できる。					
2. さまざまな症状を示す子どもの看護について説明できる。					
3. 検査・処置を受ける子どもの看護について説明できる。					
4. 演習を通して、子どもの特徴を踏まえた看護技術を実施できる。					
5. 健康障害のある小児とその家族の事例について、必要なアセスメントを行い、問題点の抽出ができる。					
6. 健康障害と入院が子どもに及ぼす影響を踏まえて、健康回復を目指した看護計画を立案できる。					
7. 事例の看護計画を実践可能な行動レベルに計画できる。					
8. 事例の看護計画を評価できる。					
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○					
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。				
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。				
○	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。				
○	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。				
○	5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。				
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>					
時間	授業内容	方法	講師		
1	子どものアセスメント 1) アセスメントに必要な技術 2) 身体的アセスメント 3) コミュニケーション	講義 ポストテスト	五嶋 結理		
2	症状を示す子どもの看護 1) 不きげん 2) 啼泣 3) 痛み 4) 呼吸困難 5) チアノーゼ 6) ショック 7) 意識障害 8) 痙攣 9) 発熱 10) 嘔吐 11) 下痢 12) 便秘 13) 脱水	講義 ポストテスト			
3	14) 浮腫 15) 出血 16) 貧血 17) 発疹 18) 黄疸	講義 ポストテスト			
4	検査・処置を受ける子どもの看護 1) 子どもにとっての検査・処置体験と看護の実際 2) 薬物動態と薬用量の決定 3) 与薬 4) 輸液管理 5) 抑制 6) 検体採取 7) 電法 8) 清潔 9) 経管栄養	講義 ポストテスト			
5	10) 排泄 11) 呼吸症状の緩和 12) 救命処置	講義 ポストテスト			
6	小児に必要な看護技術 1) バイタルサインの測定と工夫 2) 体温・脈拍・呼吸・血圧測定方法	演習	平野 薫		
7	2) 点滴療法、抑制法、採尿法、	演習			
8	3) 酸素吸入療法、酸素ポンベの取り扱い、ネブライザーを用いた気道加湿、口腔内・鼻腔内吸引、救命処置	演習			
9	1. 健康障害のある小児とその家族の事例について看護過程を展開する。 1) 情報収集	講義・演習			

10	2) アセスメント	講義・演習	平野 薫
11	2) アセスメント	講義・演習	
12	3) 問題点抽出、優先順位の決定	講義・演習	
13	4) 計画立案	講義・演習	
14	5) 援助の実際	講義・演習	
15	6) 評価	講義・演習	
	終了試験	講義・演習	
<b>受講上の注意</b>			
<p>基礎看護技術で学習した知識と技術をもとに、小児の成長発達段階に関連させて理解しましょう。実習において経験する機会が多いため、積極的にとりくみましょう。特にバイタルサイン測定は必ず実習で経験する技術ですので、実施できるよう技術を習得しましょう。</p> <p>動画視聴：科目に関連する看護技術の動画は電子教科書から視聴できます。授業前後に視聴、自己練習する際の確認で視聴するなど積極的に活用していきましょう。</p> <p>看護過程の展開については、対象理解に必要な事前学習を行い、主体的に取り組みましょう。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>ポストテスト（10点）、課題提出（40点）、終了試験（50点）</p> <p>到達レベル演習Ⅰ：バイタルサイン測定、酸素吸入療法、ネブライザーを用いた気道内加湿、検査の介助（採尿法、抑制）</p> <p>到達レベル演習Ⅱ：口腔内・鼻腔内吸引、医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、酸素ポンプ）の操作、管理</p> <p>到達度の確認は、以下のいずれかで行う。</p> <p>演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画撮影など</p>			
<b>使用するテキスト</b>			
<p>奈良間美保他著 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院</p> <p>奈良間美保他著 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院</p>			
<b>参考文献</b>			
<p>図書室には多数の小児看護技術に関する図書や看護雑誌がありますので自分に会うものを参考にしてください。</p>			

分野 専門分野			
授業科目名	単位	1単位	開講時期
母性看護学概論	時間	30時間	1年次
講師名	大熊郁子	実務経験	専任教員/助産師
講師名	藤吉啓造	実務経験	医療機関において医師として勤務
<b>授業概要</b>			
母性看護における臨床看護実践に必要な知識を学習する。			
<b>到達目標</b>			
1) 母性看護の基盤となる概念や理論、母性看護の目的、対象を理解する。			
2) 女性のライフサイクルと健康問題、課題を学び、母性看護の役割について理解する。			
3) 性と生殖の看護の重要性がわかる。			
4) 母子保健統計からみた母子の健康問題、課題について考えることができる。			
5) 母子の健康と安全を保障する法律、施策、環境について理解できる。			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
○	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
○	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
○	5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
時間	授業内容	方法	備考
	母性看護学概論		
1	母性看護の基盤となる概念、母性看護の中心概念	講義 ポストテスト	大熊郁子
2	母性看護の機能と役割	講義 ポストテスト	
3	母性看護の対象の特徴	講義 ポストテスト	
4	生殖における生理① 生殖器の機能 第二性徴 性周期	講義 ポストテスト	
5	生殖における健康問題と看護	講義 ポストテスト	
6	思春期・成熟期・更年期・老年期の看護(生活を支える地域の看護活動含む)	演習	
7	思春期・成熟期・更年期・老年期の看護(生活を支える地域の看護活動含む)		
8	思春期・成熟期・更年期・老年期の看護(生活を支える地域の看護活動含む)		
9	思春期・成熟期・更年期・老年期の看護(生活を支える地域の看護活動含む)	課題発表	
10	母性看護と倫理、課題と展望	講義	
	母性保健		
11	母性保健の統計、母性保健の法律	講義 ポストテスト	藤吉啓造
12	母性看護に関わる施策、母性看護の提供システム	講義 ポストテスト	
13	生殖に関する生理② 妊孕性と不妊	講義 ポストテスト	
14	リプロダクティブヘルスケア(家族計画/性感染症とその予防/HIV/HPV)	講義 ポストテスト	
15	リプロダクティブヘルスケア(人工妊娠中絶/喫煙/児童虐待)	講義 ポストテスト	
	筆記試験		
<b>受講上の注意</b>			
予習においてはテキスト、関連書籍を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。			
また、関連動画がある場合は視聴する。			
復習においては、テキスト、講義資料、ポストテストを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める			
母性看護学概論6回目までに、思春期・成熟期・更年期・老年期の特徴についてレポートにまとめて、グループワークで選択テーマにおける健康問題・課題、健康教育、看護を考える			
<b>評価方法</b>			
母性看護学概論 ポストテスト(10点) 課題レポート及び演習への取り組み(15点) 筆記試験(35点)			
母性保健 ポストテスト(10点) 筆記試験(30点)			
<b>使用するテキスト</b>			
医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学1			
医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学2			
<b>参考文献</b>			
図書室には多数の母性看護に関する図書や雑誌、漫画本もあります。自分に合うものを参考にしてください			

分野 専門分野			
授業科目名	単位	1単位	開講時期
母性看護学方法論Ⅰ	時間	30時間	2年次
講師名	古賀 剛	実務経験	医療機関において医師として勤務
講師名	秋原紗希	実務経験	臨床助産師
授業概要			
母性看護学概論に内容の理解を踏まえ、妊娠・分娩・産褥・新生児期の健康や成長・発達を促す母性看護における臨床看護実践に必要な知識を学習する。さらに、ハイリスク、異常妊娠・分娩・産褥など特別な状態にある対象の理解と看護を学ぶ。			
到達目標			
1. 妊娠・分娩・産褥期の身体的、心理的、社会的特性および必要な看護について述べることができる。 2. 妊娠・分娩・産褥期に起こりやすい異常と、それらに対する看護について述べるができる。 3. 胎児発育および新生児の生理的特徴と新生児に必要な看護について述べるができる。 4. 妊娠前からの女性・家族への支援、必要となる医療について理解する。			
DPとの関連			
関連が深いもの◎、関連するもの○			
<input type="radio"/>	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
<input checked="" type="radio"/>	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
<input checked="" type="radio"/>	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
<input type="radio"/>	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
<input type="radio"/>	5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
授業の流れ【全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・準備物品など】			
時間	授業内容	方法	備考
1	妊婦の看護	講義 ポストテスト	秋原紗希
2	妊婦の看護	講義 ポストテスト	
3	妊娠期の異常と看護	講義 ポストテスト	
4	産婦の看護	講義 ポストテスト	
5	分娩期の異常と看護	講義 ポストテスト	
6	産婦の看護 (産褥の生理・乳汁分泌機構)	講義 ポストテスト	
7	産褥期の異常と看護	講義 ポストテスト	
8	新生児の看護	講義 ポストテスト	
9	新生児の看護	講義 ポストテスト	
10	新生児期の異常と看護	講義 ポストテスト	
	母性(周産期)疾患		古賀 剛
11	遺伝相談、出生前診断、不育症、生殖補助医療	講義 ポストテスト	
12	妊娠と合併症(糖尿病・高血圧・腎・血液・膠原病・内分泌・婦人科疾患 など)	講義 ポストテスト	
13	妊娠期・分娩期の異常(妊娠悪阻・多胎妊娠、産道の異常・胎児の異常による分娩障害など)	講義 ポストテスト	
14	分娩期の異常(分娩誘発、出血、産道損傷)、胎児異常(NRFS、IUGR、先天異常、胎児感染、IUFD)	講義 ポストテスト	
15	産褥期の異常(産褥疾患)	講義 ポストテスト	
	筆記試験		
受講上の注意			
予習においてはテキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献、ポストテストを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。			
評価方法			
妊産褥婦、新生児の看護、ハイリスク妊産婦、新生児の看護 ポストテスト(20点)、筆記試験(40点) 母性疾患 ポストテスト(10点)、筆記試験(30点)			
使用するテキスト			
医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学2			
参考文献			
年間購読雑誌 ナーシングキャンパス 特集号など自分に合うように参考にしてください 図書室には多数の母性看護に関する図書や看護雑誌、DVDがありますので自分に合うものを参考にしてください			

科目No.48

分野 専門分野			
授業科目名 精神看護学概論	単位 1 時間 30		開講時期 1年次前期
講師名 見城隆俊	実務経験	看護師として臨床経験あり	
講師名 中村慎治郎	実務経験	看護師として臨床経験あり	
<b>授業概要</b> 心・精神のありようが人生の全般にわたって大きく影響することを理解し、当事者にとって精神を病むと言うことがどういうことなのかについて掴み、精神を障害された人への支援・援助をどのようにあるべきかについて考察できるように基礎的な力を養う			
<b>到達目標</b> 1.精神看護と精神保健の概要を説明できる 2.精神医療の歴史を概観し、精神障害者や精神疾患がどのように理解されてきたかを説明できる 3.人の心の発達と危機的状況及びストレスコーピングについて説明できる 4.精神保健福祉法によって精神医療が人間の尊厳と人権の尊重をどのように実現しようとしているかを説明できる 5.患者-看護師関係を深める方法を理論を用いて説明できる 6.精神障害を体験する人々の苦しみを踏まえて当事者としての心情について説明できる			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○ ◎ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。 ◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。 ◎ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。 ◎ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。 ○ 5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。			
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
時間	授業内容	方法	備考
1	ガイダンス、精神医療の歴史と変遷	講義	見城隆俊
2	精神医療の歴史と変遷 その中で果たす看護の役割	講義	
3	精神障害という病と日常生活障害	講義、GW	
4			
5	災害とメンタルヘルス及びPTSD	講義	
6	理論を基にした患者-看護師関係と治療の人間関係	講義、GW	
7			
8	精神の健康と障害とは	講義	中村慎治郎
9	心のはたらきと人格形成	講義	
10	同上	講義	
11	危機とストレスコーピング	講義	
12	現代社会とメンタルヘルス	講義	
13	精神障害と社会学(スティグマ、ソーシャルインクルージョン)	講義	
14	精神障害と法制度	講義	
15	主な精神保健医療福祉対策とその動向	講義	
	終了試験		
<b>受講上の注意</b> 精神看護に関する専門用語等は准看護科で学習した内容を復習しておくこと			
<b>評価方法</b> 終了試験50点、課題レポート50点(レポートは「精神医療の歴史と変遷をふまえて看護の果たす役割」というテーマ)			
<b>使用するテキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院			
<b>参考文献</b>			

科目NO.49

分野 専門			
科目名	精神看護学方法論Ⅰ	単位	1単位
		時間	30時間
開講時期	2年次前期		
講師名 東中園 聡	実務経験	医師として医療機関に勤務	
講師名 八反地 ユカ	実務経験	専任教員/看護師として臨床経験あり	
<b>授業概要</b>			
当事者にとって精神を病むというということがどういうことか掴むために、医学モデルによる精神障害とその精神機能としての症状のとらえ方や診断・治療について理解し、精神をケアする実践者はどうあるべきか考察する能力を養う			
<b>到達目標</b>			
1.精神の障害について、それぞれの概念と症状及び検査・治療について説明できる			
2.トラウマとサバイバーについてその概略について説明できる			
3.精神看護の対象者との関係において、その関係のアセスメントの具体的方法と援助者に必要な姿勢について説明できる			
4.精神看護学概論で学んだことを更に深めて精神をケアする実践者としてどうあるべきか考察できる			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
◎	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
○	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
○	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
時間	授業内容	方法	備考
1	精神障害とは、精神障害の診断と分類	講義	東中園 聡
2	統合失調症 その症状と治療	講義	
3	同上	講義、ポストテスト	
4	気分障害 その症状と治療	講義	
5	同上	講義、ポストテスト	
6	ストレス関連障害、神経症性障害 その症状と治療	講義、ポストテスト	
7	パーソナリティ障害、発達障害 他	講義	
8	精神科での治療(薬物療法、個人療法、集団療法、電気けいれん療法 他)	講義、ポストテスト	
9	トラウマとサバイバー	講義	
10	ケアと人間関係 (コンフリクション、自己一致、転移感情、家族と役割 等)	講義	
11	同上	グループ討議	
12	回復を支援する(リカバリー、ストレングスモデル 等)	講義	
13	同上	グループ討議	
14	援助者のメンタルヘルス	講義	
15	地域療養を支援する	講義	
	終了試験		
<b>受講上の注意</b>			
精神疾患及び看護について准看護科で学んだことをおさえておく			
<b>評価方法</b>			
ポストテスト10点、終了試験50点、課題レポート40点			
合計100点			
<b>使用するテキスト</b>			
系統看護学講座 専門分野 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院			
系統看護学講座 専門分野 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院			
<b>参考文献</b>			

科目NO.50

分野 専門			
科目名 精神看護学方法論Ⅱ	単位 時間	1単位 30時間	開講時期 2年次後期
講師名 福島 凌	実務経験	看護師として医療機関に勤務	
講師名 八反地 ユカ	実務経験	専任教員/看護師として臨床経験あり	
<b>授業概要</b> 精神障害を持つ人の、症状や健康状態、治療の場に応じた看護について理解し、当事者にとっての精神を病むということはどういうことかについて考察できるようにすると共に、紙上患者の事例について実際にアセスメント・診断等を通して、精神を障害された人への看護を具体的に考えられる様にする			
<b>到達目標</b> 1.精神障害を持つ人の症状や健康段階、治療や療養の場に応じた具体的な看護について説明できる 2.精神科看護におけるリスクマネジメントについて説明できる 3.精神を障害された人の具体的事例を通してアセスメントや診断を行い、精神障害を持つ人への看護を具体的に考えることができる			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
◎	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
○	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
○	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
時間	授業内容	方法	備考
1			福島 凌
2	精神症状と看護	講義 ポストテスト	
3			
4	精神科における検査・治療についての看護	講義	
5	薬物療法・精神療法と看護	講義、ポストテスト	
6	健康段階に応じた看護	講義	
7		ポストテスト	
8	精神科看護におけるリスクマネジメント	講義、ポストテスト	八反地 ユカ
9	ガイダンス 統合失調症患者の事例展開	講義	
10	統合失調症患者の事例展開	自己学習	
11	統合失調症患者の事例展開	自己学習	
12	薬物療法とその意義	講義及び演習	
13	統合失調症患者の事例展開	自己学習	
14	健康的側面と患者の全体像及び看護方針について	講義及び自己学習	
15	統合失調症患者の事例展開	自己学習	
	終了試験		
<b>受講上の注意</b> 精神疾患や精神看護については精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰの内容をよく復習して臨むこと			
<b>評価方法</b> ポストテスト10点 終了試験50点 課題レポート40点 併せて100点			
<b>使用するテキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院 看護診断ハンドブック			
<b>参考文献</b>			

<b>分野 専門分野</b>			
<b>科目名</b> 基礎看護学実習	<b>単位</b>	2単位	<b>開講時期</b> 2年後期
	<b>時間</b>	90時間	
<b>講師名</b> 臨床指導者・臨床指導教員	<b>実務経験</b>	看護師/教員（看護師）	
<b>授業概要</b> 看護過程の思考に基づき対象の理解、必要な看護を考え、個別性に合わせた看護実践を行うための基礎能力を養う			
<b>到達目標</b> 1)シャドー実習を通して臨床判断の基礎を学ぶ 2) 看護過程の展開し、受け持ち患者の個別性に合わせた看護を実践できる。 3) 看護倫理に基づき、受け持ち患者や家族とよりよい人間関係を形成することができる。 4)保健医療福祉チームの一員としての自覚と責任を認識し、行動することができる。 5)多職種連携・協働の意義と看護師の役割を理解し自己の看護観を述べるすることができる。			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
◎	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
◎	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
◎	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
<b>授業内容</b>			
実習要綱【基礎看護学臨地実習】参照			
行動目標	1.援助場面を見学し、その援助に至る看護師の気づき、判断から実践に至るまでの一連の行動を述べる ことができる。 2.受け持ち患者のアセスメントに必要な客観的・主観的情報を収集し、記述できる 3.収集した情報を整理し、分析・解釈・統合し看護問題を記述できる 4.関連図を用いて全体像を記述できる 5.看護診断とその関連因子を記述することができる 6.看護問題の優先順位を決定し記述できる 7.根拠や個別性をふまえた看護計画を立案し記述できる 8.立案した看護計画をその時の患者のニーズや状態を踏まえて安全・安楽、自立に留意しながら実施できる 9.実施した内容及び観察した内容を正確に報告・記録できる 10.期待される結果に基づいて評価し、計画を修正できる 11.看護者の倫理的な態度について述べる 12.患者、家族とよりよい人間関係を築くことができる 13.チームの一員として報告・連絡・相談を適切に行うことができる 14.看護学生として責任ある行動をとることができる。 15.受け持ち患者に関わる専門職の役割について述べる 16.保健医療福祉チームの連携と看護師の役割を考えることができる。		
<b>受講上の注意</b> (1) 基礎看護学実習前（2年次7月頃）迄に、未修得科目が3科目以内であること。 (2) 解剖生理学・病態生理学のうち1つの単位を修得していること。 (3) 看護過程Ⅰ、基礎看護学技術Ⅱの単位を修得していること			
<b>評価方法</b> ・基礎看護学実習評価を用い、実習目標の達成度、実習記録等の提出物、実習前から実習後までの学習状況 実習の取組み・出席状況により総合的に評価を行う 臨床指導者40%、臨床指導教員60%			

分野 専門分野

<b>科目名</b> 成人看護学実習	<b>単位</b> 2単位  <b>時間</b> 90時間	<b>開講時期</b> 2年次～3年次
<b>講師名</b> 臨床指導者・臨床指導教員	<b>実務経験</b> 看護師/教員（看護師）	
<b>授業概要</b> 生体侵襲の大きい治療周期期にある急激な変化をきたしている患者の状態をアセスメントし、健康危機状況にある患者の回復を促す看護を学ぶ。  <b>到達目標</b> 1)急性期・周期期の特徴をふまえた対象の理解ができる。 2)健康障害及び治療処置による反応を、系統的に観察し情報収集分析し、看護上の問題を明確にすることができる。 3)対象の症状や治療・処置に伴う苦痛の緩和ができる。 4)対象が回復していく過程に応じて、自立に向けた日常生活援助ができる 5)急性期における医療チームの連携を学び、看護者の役割を理解できる。		
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○		
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。	
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。	
◎	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。	
◎	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。	
◎	5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。	
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>		
<p style="text-align: center;"><b>授業内容</b></p> <p>実習要綱【成人看護学臨地実習】参照</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 急性期・周期期の特徴をふまえ、身体面、心理面の理解ができる。</li> <li>2) 健康障害及び治療処置による反応を、系統的に観察し情報収集できる。</li> <li>3) 健康障害及び治療処置に関連した情報を統合的に分析し、看護上の問題を明確にする。</li> <li>4) 健康障害及び治療処置による影響、変化に対応した個別的な援助ができる。</li> <li>5) 生体機能の回復を促し、回復の状態に応じた日常生活自立への援助ができる。</li> <li>6) 急性期における医療チームの連携を学び、看護者の役割を理解できる。</li> </ol>		
<b>受講上の注意</b>		
<b>評価方法</b> 成人看護学実習評価を用い、実習目標の達成度、実習記録等の提出物、実習前から実習後までの学習状況 実習の取組み・出席状況により総合的に評価を行う 臨床指導者40%、臨床指導教員60%		

<b>分野 専門分野</b>			
<b>科目名</b> 老年看護学実習	<b>単位</b>	2単位	<b>開講時期</b> 2年次～3年次
	<b>時間</b>	90時間	
<b>講師名</b> 臨床指導者・臨床指導教員	<b>実務経験</b> 看護師/教員（看護師）		
<b>授業概要</b> 高齢者を統合的に理解し、治療や看護を必要としている対象の健康回復やその人、家族が望む生活の実現に向けて看護過程を用いて実践できる能力を養う。また、これらの援助を通して高齢者のもてる力を活かした援助方法、家族へのケア、他職種との連絡について学ぶ。			
<b>到達目標</b> 1. 高齢者を総合的に理解し、対象の健康回復やその人、家族が望む生活の実現に向けて看護過程を用いて実践ができる 2. 継続看護の必要性を理解し、保健医療福祉チームの一員としての自覚をもち、他職種との連携と協働を考慮できる。 3. 高齢者を取り巻く社会を理解し、老年観を深めることができる。			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
◎	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
◎	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
◎	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
<b>授業内容</b>			
実習要綱【老年看護学臨地実習】参照			
実習目標			
1. 高齢者を総合的に理解し、対象の健康回復やその人、家族が望む生活の実現に向けて看護過程を用いて実践ができる			
2. 継続看護の必要性を理解し、保健医療福祉チームの一員としての自覚をもち、他職種との連携と協働を考慮できる。			
3. 高齢者を取り巻く社会を理解し、老年観を深めることができる。			
行動目標			
1. 健康上の問題を総合的にとらえることができる			
2. 対象の個性や残存機能を活かした看護実践ができる			
3. 高齢者、その家族と良好な人間関係を構築することができる			
4. 継続看護の必要性を理解し、保健医療福祉チームの一員としての自覚をもち、他職種との連携と協働することを理解する			
5. 高齢者や家族とのかかわりを通して老年観を深めることができる。			
<b>受講上の注意</b> 3週間一人の受持ち患者さんに関わっていきます。実習を通して、対象を理解し、健康障害を持つ高齢者と家族の看護の実際を楽しく学びましょう。			
<b>評価方法</b> ・老年看護学実習評価を用い、実習目標の達成度、実習記録等の提出物、実習前から実習後までの学習状況 実習の取組み・出席状況により総合的に評価を行う 臨床指導者40%、臨床指導教員60%			

<b>分野 専門分野</b>			
<b>科目名</b> 小児看護学実習	<b>単位</b>	2単位	<b>開講時期</b> 2年次～3年次
	<b>時間</b>	90時間	
<b>講師名</b> 臨床指導者・臨床指導教員	<b>実務経験</b> 看護師/教員（看護師）		
<b>授業概要</b> 小児の成長発達過程の特性を理解し、健全な育成をめざしてあらゆる健康レベルにある小児と家族に対して適切な看護を 実践できる基礎的能力を養う。			
<b>到達目標</b> 1. 小児各期における身体的・精神的・社会的な発達の特徴を理解できる。 2. 健康障害や入院が小児とその家族の及ぼす影響を理解できる。 3. 対象の小児とその家族の看護問題を明確にし、個別性に応じた計画が立案できる。 4. 子どもと家族の特徴を理解し、必要な援助を安全安楽に実施できる。 5. 小児看護の役割と保健医療福祉チームの連携・協働を理解することができる。			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
◎	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
◎	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
◎	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
<b>授業内容</b>			
実習要綱【小児看護学臨地実習】参照			
実習目標			
1. 小児看護学実習Ⅰ（保育園）			
1) 健康な乳幼児の成長発達の特徴を述べることができる。			
2) 小児の健やかな成長発達を促すための保育環境と発達段階に応じた日常生活への関わりについて述べるこ とができる。			
2.小児看護学実習Ⅱ（外来）			
1) 小児科外来の特徴および看護師の役割について述べるこ とができる。			
2) 子どもの成長・発達に応じた看護と、協働、継続、連携の必要性について述べるこ とができる。			
3) 病児保育の実際と看護師の役割について述べるこ とができる。			
3.小児看護学実習Ⅲ（病棟）			
1) 小児各期における身体的・精神的・社会的な発達の特徴を理解できる。			
2) 健康障害や入院が小児とその家族に及ぼす影響を理解できる。			
3) 対象の小児とその家族の看護問題を明確にし、個別性に 応じた計画が立案できる。			
4) 子どもと家族の価値観を尊重し、安全・安楽に援助するこ とができる。			
5) 小児看護の役割と保健医療福祉チームの連携・協働を 理解することができる。			
<b>受講上の注意</b> ・小児看護学方法論Ⅱで行う看護過程の展開の実際 の振り返りをしっかり行う。			
<b>評価方法</b> ・小児看護学実習Ⅰ～Ⅲそれぞれ終了後に、指導者と情報交換を行い、評価表に沿って総合的に各担当教員 が評価をする。 ・評価内訳：小児看護学実習Ⅰ（20点）、小児看護学実習Ⅱ（30点）、小児看護学実習Ⅲ（50点）で合計100点。			

<b>分野</b> 専門分野			
<b>科目名</b> 母性看護学実習	<b>単位</b>	2単位	<b>開講時期</b>
	<b>時間</b>	60時間	2年次～3年次
<b>講師名</b>	臨床指導者・臨床指導教員		<b>実務経験</b> 看護師・助産師 / 教員（助産師）
<b>授業概要</b> 周産期各期・女性のライフサイクル期における看護を必要とする人々を理解し、対象に看護が提供できるための基礎的能力を養う。			
<b>到達目標</b> 1. 妊産褥婦および新生児の特徴・看護の実際を述べることができる。 2. 思春期・成熟期・更年期・老年期の対象の健康問題と必要な看護支援を述べることができる。 3. 母子とその家族を支える地域母子保健福祉を理解し、役割を考える。 4. 母子保健医療チームの一員である責任と役割を自覚し行動できる。			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
◎	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
◎	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
◎	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
<b>授業内容</b>			
実習要綱【母性看護学臨地実習】参照			
病棟実習			
1) 産婦の特徴・看護の実際を述べることができる。			
2) 褥婦の特徴・健康生活の維持・母子関係成立への援助の実際を述べることができる。			
3) 新生児の生理的特徴・胎外生活への援助看護の実際を述べることができる。			
4) 切れ目なく母子とその家族を支援する方法、内容について述べることができる。			
外来・地域実習			
1) 妊婦の生理的特徴・看護の実際を述べることができる。			
2) ライフサイクル各期の女性の健康増進、援助方法について述べることができる。			
3) 周産期医療、母子保健施策、制度、社会資源の活用等を結び付け、地域で切れ目なく母子とその家族を支援する方法、内容について述べることができる。			
<b>受講上の注意</b>			
母性看護学方法論Ⅱの演習等振り返りをしっかり行う			
<b>評価方法</b>			
指導者と情報交換を行い、評価表に沿って総合的に教員が評価する。 評価内訳：病棟実習（55点）、外来・地域実習（45点）			

<b>分野</b> 専門分野			
<b>科目名</b> 精神看護学実習	<b>単位</b>  <b>時間</b>	2単位  90時間	<b>開講時期</b> 2年次～3年次
<b>講師名</b> 臨床指導者・臨床指導教員	<b>実務経験</b> 看護師/教員（看護師）		
<b>授業概要</b> 心・精神のあり様が、その人の生活全般に大きく影響を及ぼすことを理解し、精神に障害を持つ人の問題を構造的に捉え、援助・支援のあり方について考察できると共に、援助過程を通して自己理解を深めるようにする			
<b>到達目標</b> 1 精神に障害を持つ人の治療的環境と看護の役割が理解できる 2 精神の障害が患者の日常生活にどのように影響を及ぼしているかを掴み、その問題の解決の為に必要な援助が考えられる 3 精神を障害された人との相互作用の中から、治療的人間関係を構築する必要性が理解できると共に、自己洞察ができる 4 健康段階に応じた生活の場において、障害を持ちながらも生活の場に適応して生活ができるためにどのような援助・支援が必要か考察できる			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
◎	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
◎	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
◎	5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
<b>授業内容</b>			
実習要綱【精神看護学臨地実習】参照 行動目標 1.医療施設全体が治療環境としてどのような場であるか説明できる 2.患者の問題解決に向けて、多職種が連携する中で看護が果たす役割が理解できる 3.患者の健康問題や症状、背景などから患者が抱える問題を理解し、解決の為に必要な援助が考えられる 4.患者の行動の意味について考え、場面に適した応答ができる 5.患者の人権を尊重する必要性が理解できる 6.患者との相互作用の過程を通して治療的人間関係構築の必要性が理解できると共に、自己の感情に気づき、自己理解が深められる 7.地域で療養する患者の、日常生活上の問題を解決する為の支援のあり方を考察できる 8.健康段階を一連のものとして捉え、発症から地域療養までのそれぞれに応じた援助・支援のあり方について考察できる			
<b>受講上の注意</b> ・実習に入る前にDVD「目で見る精神看護」Vol.1,2,3を視聴しておく			
<b>評価方法</b> 実習評価基準に従って臨床指導者40点、担当教員50点と 訪問看護ステーション、地域活動支援センター実習は担当教員が10点満点で評価 合計100点			

科目名 統合実習	単位	2単位	開講時期 3年次
	時間	90時間	
講師名 臨床指導者・臨床指導教員	実務経験 看護師/教員（看護師）		
<b>授業概要</b> 地域社会に貢献できるために、専門職業人として広い視野をもち看護を実践できる能力を養う内容とする。看護管理及び他部門での実習を行なうことで、組織の中での連携と看護師の役割の理解を深めていく。また専門分野での実習を踏まえ、実務に即した実習を行うため複数の患者を受けもち、看護のさまざまな場面に遭遇することで、看護実践能力を身につける。			
<b>到達目標</b> 1) 組織として目的を達成するために行われている看護部門の組織化の構造と機能から求められている役割が記述できる。 2) 看護ケアのマネジメントプロセスに基づく機能を学び、その役割が説明できる。 3) 看護管理の7項目（安全管理、情報管理、業務管理、薬剤等の管理、災害防災管理、物品管理、コスト管理）が理解できる、 4) 複数患者を担当し、看護援助の優先度が判断でき看護実践ができる。 5) 他職種との調整、協働について体験し、チーム医療の説明ができる。			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
◎	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
◎	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
◎	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b> <div style="text-align: center;"><b>授業内容</b></div> 実習要綱【統合実習】参照 目標 1)看護管理の意義とリスクマネジメントの実際を理解することができる 2)チームの一員として看護活動の実際を理解できる 3)対象を取り巻く医療チームの一員として多職種との連携の必要性が理解できる。 4)複数患者を受け持ち看護援助の優先度が判断でき、看護実践ができる。			
<b>受講上の注意</b> 成人看護学実習または、老年看護学実習が未履修のものは受講できない			
<b>評価方法</b> 統合実習評価を用い、実習目標の達成度、実習記録等の提出物、実習前から実習後までの学習状況 実習の取り組み・出席状況により総合的に評価を行う 臨床指導者40%、臨床指導教員60%			